

2020年3月15日（日）メッセージアウトライン 「クリスチャンの自己認識」

聖書箇所：Ⅱペテロ1：1～11

タイトル：「クリスチャンの自己認識」

テーマ：「クリスチャンである」とはどういうことでしょうか。「クリスチャン」て一体何者？と未信者の方から尋ねられることもあるでしょう。自分でもうまく説明できないと思っておられる方もあるかもしれません。

一口にクリスチャンと言いながら、自分が何者であるかをはっきりと自覚しなければ、クリスチャンには大きな恵みとか特権が与えられていると言われながら、この世の人と変わらない日々を送ってしまうことでしょう。

本日の聖書箇所は、イエス様の12弟子の一人であるペテロが、アジア各地に散らされているイエス様を信じているユダヤ人同胞に書き送った手紙の冒頭部分です。ペテロはここで、クリスチャンの持つべき正しい自己認識——クリスチャンである私って一体何？——について語っています。今日のみことばを通して、自らのクリスチャンのあり方を自己吟味してみましょう。

1. ペテロの手紙について

①著者：イエス様の12弟子の一人であるペテロ

*ペテロの自己紹介

②宛先：アジアに散って寄留しているイエス・キリストを信じているユダヤ人同胞へ

2. クリスチャンの自己認識のスタートライン（過去の出来事）

*「私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって、私たちと同じ信仰を受けた方々へ」

*信仰の内容

Iコリント15：3～4（どのようにイエス・キリストの義を受けたかを説明）

3. 救いを受けた者に与えられたもの（現在）

①*「主イエスの神としての御力」

*「神の約束」

②あらゆる熱意を傾けて求めるべきこと——信仰の成長 5～8節

③怠惰である者や不信仰な者への戒め

④クリスチャンの希望（将来）

4. 結論

①罪贖われ、キリストの御救いに与った者（救われた）

②信仰の成長（キリストにある発展途上人——救われつつある）

③救い主であるイエス・キリストの永遠の御国へ（救いの完成）

クリスチャンが自らを正しく認識することは過去に受けた恵み、現在受けている恵み、将来にいただく恵みを正しく理解して、真に神のしもべとして生きることにつながる。